



# 会報

魅力あるロータリーに！

2017. 05. 10 第1230回例会 No. 27-33 2017. 05. 17発行

◎司会 SAA・親睦委員会 中谷 綾子  
◎点鐘 会長 小泉 博

◎国歌斉唱「君が代」斉唱  
ロータリーソング「我等の生業」  
ソングリーダー 菊池 敏

◎「四つのテスト」唱和  
SAA・親睦委員会 中谷 綾子

◎お客様紹介 会長 小泉 博  
卓話講師  
首都大学東京都市環境科学研究科教授 沼田真也様

◎会務報告 会長 小泉 博  
\*本日例会後、定例理事会を事務局で行います。役員、理事の方はお集まり下さい。  
\*先日峯岸会員の御母堂様がお亡くなりになり、連休中の為、会員皆様への連絡が遅れました。事務局の当間さんには休日出勤して頂き会員皆さんに連絡してもらいました。

◎幹事報告 幹事 杉山 真一  
配布：ロータリーの友5月号  
本日の卓話資料

回覧：バギオだより  
本年度2016～2017年度、各委員会の活動報告書を5月末までに各委員長から事務局に提出して下さい。

他クラブ例会変更：事務局にお問い合わせ下さい。

◎次年度会務報告 会長エレクト 田崎 博実  
\*地区から第1回ロータリー財団セミナー開催の案内が来ました。日程は6月5日午後2時から、ハイアットリージェンシー東京B1「桃山」です。参加希望者は、言っていただければ推薦いたします。  
\*本日第2回被選クラブ運営管理連絡会議です。18時30分から3階瑞雲です。次年度活動計画書案の検討が中心議題になります。

## 【 諸事報告 】

◎峯岸 忠会員より  
先日母の葬儀の節には、皆様大変お世話になり御礼申し上げます。母は94歳で亡くなりました。父は50歳での逝去でしたので、約倍近く生きたと思います。私も母に負けないように95歳くらいまで生きようと思っております。皆様本当に有難うございました。

◎出席報告 出席奨励委員会 入沢 修自



会員総数	30名
出席義務免除者	8名
出席者数 出席義務者	15名
出席免除者	8名
計	23名
出席率	23/30 = 76.67%
第1197回例会 (4/26) 訂正出席率	80.00%

◎ニコニコBOX SAA・親睦委員会 菊池 敏  
小泉 博 皆さまこんにちは お客さま卓話よろしくおねがいします。  
杉山 真一 沼田様卓話よろしくお願ひいたします。  
小坂 一郎 妻が大変お世話になりました。ありがとうございました。  
峯岸 忠 いろいろお世話になりました。  
初野 有人 お客様卓話ありがとうございます。  
宮本 誠 皆さんお久しぶりです。  
田崎 博実 このGW 竹細工をしました。  
森本 由美 沼田さま いつも多摩市環境問題についてご尽力頂き、ありがとうございます。本日は卓話よろしくお願ひします。

津守 弘範 今日は雨ですね。  
齋藤 誠壽 沼田教授 卓話楽しみです。  
大松 誠二 久しぶりの雨で、畑の豆が喜んでいるよ。  
関岡 俊二 お客様ようこそ。  
足立潤三郎 峯岸会員この度はお母さんがご逝去され大変お気の毒でございました。心よりお悔やみ申し上げます。  
伊澤ケイ子 久しぶりの雨ですネ。  
中谷 絃子 気温の変化が激しいですね 体調管理に気を付けましょう。  
遠藤 二郎 お客様ようこそ。  
菊池 敏 久しぶりですネ。

**本日の合計¥26,000 (累計¥795,404)**

### ◎卓話者紹介 プログラム委員長 森本由美

プロフィールを御紹介します。  
2001年東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了、博士(理学)を取得。その後、日本学術振興会特別研究員、国立環境研究所ポスドクフェロー、科学技術振興機構・研究開発戦略センターフェロー、首都大学東京都市環境科学研究科准教授を経て、2017年4月より首都大学東京都市環境科学研究科教授。マレーシア工科大学客員准教授、文部科学省・科学技術予測センター専門調査員、多摩市みどりと環境審議会会長等を歴任。

専門分野：都市生態学、東南アジアの熱帯生物学、自然保護地域における環境管理。

### ◎卓話「生物多様性と不寛容社会」

首都大学教授 沼田 真也

「生物多様性」は、現在の自然環境問題の重要キーワードとして世界中に普及しています。



2010年に名古屋で生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)が開催されたのを機に、多くのメディアを通じて生物多様性という言葉が頻繁に登場するようになりました。日本では生物多様性基本法の制定後、自治体においても生物多様性地域戦略の策定が求められるようになり、多くの自治体の環境行政において生物多様性に関する取り組みがなされています。

しかし、都市では生物多様性を保全すること、つまり人々が生活するような場で多様な生物と共存することは、国立公園のような自然豊かな地域の希少生物を守る事とは異なる難しさがあります。例えば、多くの自治体では生物多様性の保全や再生を実現するために、公園などの都市緑化を増やし、活用することを考えています。しかし、緑地は様々な生物の住処になるので、それを増やせば、へびなどの不快動物や人身被害を与えるスズメバチも増加します。事実、近年、東京都ではネズミやゴキブリなどの不衛生害虫の相談件数は年々減少傾向ですが、樹林地や緑に生育するハチやへびなど野生生物の相談、駆除件数は増加傾向にあります。また、都市住民といっても、そ

のライフスタイルや価値観、そして自然に対する考え方は多様です。私達の最近の研究から、都市住民にとって好ましくない生物(不快生物)



に対しては、たとえ実害がない場合でも(例えば、誰かがスズメバチを見かけただけでも!),多くの人は行政が何らかの対応をすべきと考えていることが分かりました。そして、このような行政に対する要求レベルは、性別や年齢などの社会属性によっても異なることが分かってきました。

近頃は、テレビや新聞などでも保育園設置における反対運動やインターネット上でのバッシングなど、異なる意見や価値観を許容できない現代社会が取り沙汰されるようになり、「不寛容社会」という言葉を聞くようになりました。都市の生物多様性を保全するということは、生物多様性のもたらす都合の悪い面、つまり嫌われがちな生物も含む多様な生物とも付き合うことですが、現在の都市住民は決して多様な生物に対して寛容であるとは言えないようです。今回の卓話では、都市の生物多様性に関する話題として多摩市生物多様性ガイドラインの取り組みを例にしながら、「生物多様性」と私たち社会の関係のあるべき姿について考えていきたいと思います。

沼田先生のお話は、プロジェクターを投影しながら、大変くわしく、分かりやすい御説明でした。

その内容を要約しますと

- ・生物多様性の国家戦略、企業の活動、ビジネスへの活用、自治体の取り組み。・希少動物を守る手立て、日本の生物の危機的状況、東京の生物の実態、絶滅危惧種の実態。・自然の恵みによる快適な生活、自然度の高い地域ほど健康である事例。・生物多様性によるメリット、デメリットについて。・都市住民の生物に対する感覚の実態。・幼少期の自然に触れる体験の大切さ。生き物との付き合い方をどう考えるか。・多摩市緑のルネッサンスについて。

「まとめとして、」

生物多様性に対する不寛容から、寛容さを持って進んでいく事が大切であると強調されました。

### ◎お礼と閉会点鐘 会長 小泉 博

沼田先生、貴重なお話をありがとうございました。自然度が人の健康を高める事がよくわかりました。生物多様性とデメリット、つまり生物を受け入れるとデメリットが生まれることも実感いたしました。我々ロータリアンは寛容の精神がまず要求されます。不寛容の社会と寛容の精神. そんな事を実感致しました。

(今週の担当 関岡 俊二)